

ぎかいのトビラ



【特集】

市議会タウンミーティング

P2

- 29年度決算審査 P 4
- 審議した主な議案
 - 市長提出議案 P 10
 - 議員提出議案 P 11
 - 議決結果一覧 P 12
- 市政について問う
 - 《一般質問》 P 14
- 議員活動アルバム P 22
- 議会活動報告 P 23

No.122

平成30年(2018年)
 11月1日発行
 (通巻231号)



報告「議会とは？」

市民の皆さまに、もっと市議会を身近に感じてもらうため「羽村市議会って？」と題し、市議会の仕組みや、議会の構成などについてパワーポイントで詳しく説明しました。

議員には、議決権・調査権・監査請求権などいろいろな権限があります。条例の制定や改正、廃止を決定したり市の予算・決算を審査したりしています。議員の定数は18人、現在の市議会の構成年代は40歳～70歳代です。常任委員会・特別委員会などにそれぞれ属しています。議員報酬は都内26市中、現在最も低い26位です。



タウンミーティング



市議会タウンミーティングを開催しました

テーマ

子育て・孫育て〜みんなで考えよう〜

議会報告会開催のために、これまで議会改革推進委員会で検討を重ねて来ました。その結果、

1. わかりやすい情報の発信
2. 市民の皆様との意見交換
3. 議会を身近に感じていただく

この3つの目的を掲げ、7月7日ゆとろぎで議会報告会をタウンミーティングとして開催しました。

子育て一番のまちをめざして

羽村市の子育ての現状と課題について説明しました。

羽村市の将来にとって、「子育てしやすい街づくり」は、きわめて大事な課題

市民が主体となった多彩な活動

- ・読み聞かせサークル
- ・プレーパークの会
- ・地区委員会の行事
- ・夏休み宿題おたすけ塾 など

羽村市の子育て支援策は、全国2位という発表もあります(日経BP総研ランキング)。しかし、少子化の進行は急速で、「より子育てしやすい街づくり」は、羽村市にとってきわめて大事な課題です。他自治体の取り組みから学ぶこと、市民の要望・アイデアを一つ一つ実現していくことが欠かせません。また、行政だけでなく、市民との協働、事業者との協力も不可欠です。子育て一番の街を目指して、市民みんなで力を合わせていきましょう。



【表紙の写真】市議会タウンミーティング(平成30年7月7日撮影)

◀当日使用したパワーポイントの一部

グループワーク

市民と議員が2つのグループに分かれてディスカッションし、子育て世代・孫育て世代から意見が出されました。

誰もが必ず通う『学校』。年代が変われば、経験も期待も信頼も変わり、意見もさまざまでした。

Aグループ

- ゲーム機が問題だ。
- IT化が進んでいるのだから、教育の中に組み込んでいけば効果があるのでは。
- 学校は楽しくあってほしい。そのためには、教師任せではなくサポートが重要では。
- 授業の作りからも難しく、先生が大変そうだ。
- 親同士のつながりを作っていくことが大事だろうが、名簿がない。
- 子どもから友達の名前が出てくると、安心する。
- PTA、地区委員会でさまざまな行事が行われているが、子どもは休めているのだろうか。

Bグループ

少子化、保育園、町内会の活動など、子育て環境について皆さんが日ごろ感じていることが発表されました。

- 昔は布団の持ち帰りなど大変だったが、今は改善され、子どもの人数による保育料の減免など条件も良くなり、子育て環境も整ってきている。しかし、少子化が収まらないのはどうしてなのか？
- 町内会の有志で、お年寄りなどへ手助けやお話を聞く「おせっかい訪問」活動を行っていて、大変喜ばれている。子育てについても、そのような活動ができるとよい。
- 羽村市は、自然環境が良いのに、外で遊んでいる子どもたちをあまり見かけない。
- 保育園が駅の近くにあると助かるのでは。
- 保育料は改善されているが、まだ高いと感じている人はいる。



これらの意見を今後の議会活動に活かしていきたいと思います。タウンミーティングに関する皆様からのご意見をお寄せください。

平成 29 年度決算を 認定

一般会計 歳入決算額 234 億 2341 万円
歳出決算額 228 億 8945 万円

経常収支比率※が 2 年連続で 100% を超え財政が硬直化
財政運営の改善を求める意見が多くありました

9 月 18 日～ 20 日の 3 日間にわたり、平成 29 年度一般会計等
決算審査特別委員会を開催しました。

(橋本弘山委員長、西川美佐保副委員長)

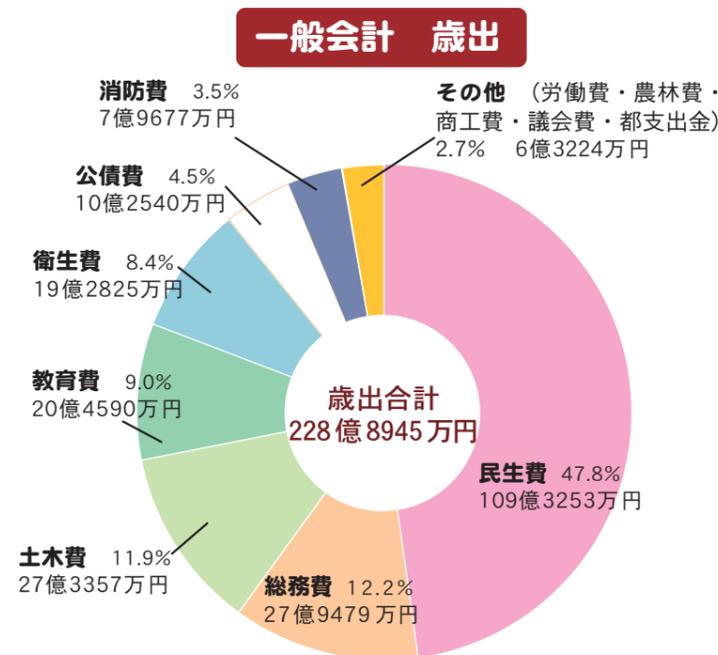
決算審査では、市長から提出された前年度の一般会計と 5 つの特
別会計、水道事業会計の決算の認定に係る議案について、予算の執
行が適正かつ効果的・効率的に行われたかなどを審査しました。

その結果、すべての会計の決算を可決すべきと決定しました。

この特別委員会の審査結果を最終日の本会議に報告し、7 つの会
計すべてを原案のとおり可決しました。特別委員会での審査の概
要をお知らせします。

■平成 29 年度一般会計歳出の概要 前年度比は 0.8%増

一般会計の歳出総額は、私立保育園保育
委託料や障害福祉サービス費などの扶助費、
動物公園改修工事などの普通建設事業費、
羽村駅西口土地区画整理事業会計への繰出
金の増加などにより、前年度に比べて 1 億
8606 万円 (0.8%) の増額となりました。



※経常収支比率…一般財源に占める経常的な支出 (人件費、扶助費、
公債費など) の割合。数値が高いほど財政が硬直化している。

平成 29 年度の主な施策

こんなことにお金を使いました

子ども

・子育て世代包括支援
センター「羽っぴー」
の設置

福祉・健康

・第五次羽村市地域福
祉計画、高齢者福祉計
画及び障害者計画な
どを策定
・成年後見制度利用支
援機関を社会福祉協
議会に委託し設置
・3～4 か月児健診に
臨床心理士を配置

市民生活・産業

・防災マップの改訂
・羽村駅西口への観光協
会の事務所移転を支援

環境・都市整備

・街路照明灯の LED 化
・低炭素化設備などの
普及促進
・羽村駅自由通路拡幅
工事の着手

オリンピック・パラ リンピック

・気運醸成、市民意識
の高揚を図る取組み
の実施

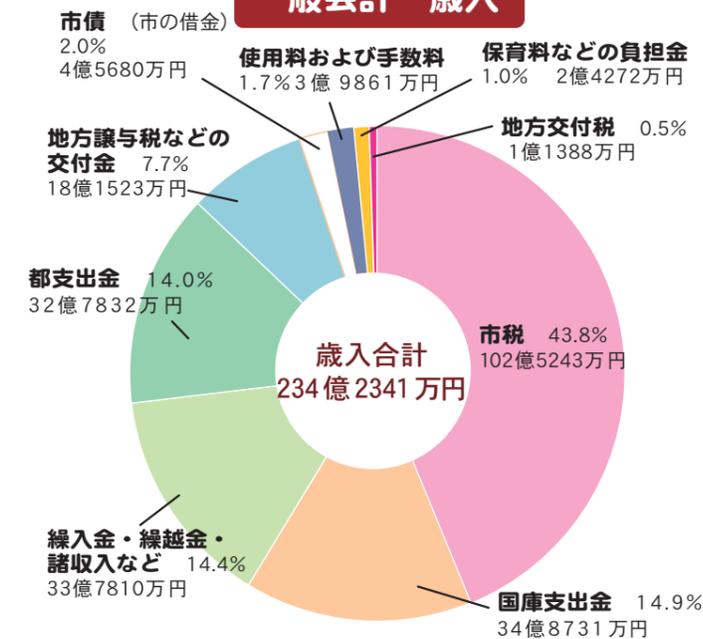
行財政運営

・コンビニ証明交付
サービスの導入
・シティプロモーショ
ンの実施

公共施設整備

・小中学校トイレ洋式
化工事

一般会計 歳入



■平成 29 年度一般会計歳入の概要 前年度比は 0.6%増

一般会計の歳入総額は、都支出金や地方
交付税の増額などにより、前年度に比べて
1 億 3008 万円 (0.6%) の増額となりまし
た。

主な財源である市税は、102 億 5243 万
円で、前年度と比べ 1 億 5071 万円の減額。
歳入全体に占める割合は 43.8%で、前年度
より 0.9 ポイント下がりました。

■平成 29 年度会計別決算状況

(単位：万円)

区分	予算現額	歳入決算額 (実際の収入)	収入率 (予算現額に 対する実際の歳入 の割合)	歳出決算額 (実際の支出額)	執行率 (予算現額に 対する歳出の 割合)	歳入歳出 差引額	
一般会計	2,347,070	2,342,341	99.8%	2,288,945	97.5%	53,396	
特別会計	国民健康保険事業会計	717,747	740,774	103.2%	707,739	98.6%	33,035
	後期高齢者医療会計	117,489	117,841	100.3%	116,109	98.8%	1,732
	介護保険事業会計	374,877	355,407	94.8%	331,845	88.5%	23,562
	福生都市計画事業羽村駅 西口土地区画整理事業会計	101,667	93,919	92.4%	86,479	85.1%	7,440
	下水道事業会計	116,872	116,436	99.6%	115,055	98.4%	1,381
水道事業会計	収益的収入	114,273	114,013	99.8%	—	—	収益的収支
	収益的支出	89,218	—	—	87,618	98.2%	26,395
	資本的収入	10,448	10,448	100.0%	—	—	資本的収支
	資本的支出	60,296	—	—	57,820	95.9%	△ 47,372

質疑

Q 市民税の法人分が前年度に比べて約1億円減少している理由は。

A 市内事業所の大規模な設備投資や新製品の開発費、広告宣伝費や円高などによる、営業外収益の減少等に伴うものである。

Q 市税の構成比が43・8%であるが、26市中高い方から何番目か。また、26市の平均は。

A 羽村市の順位は16番目。市税の26市の構成比の平均は45・5%。
Q 円高による企業への影響などは、企業訪問などを通して状況を把握してはどうか。

A 今年度から産業企画課が設置された。情報交換を行い、市内企業の状況が税収にどう反映するか、検証していきたい。

Q 昨年度も活動していた「プラチナ未来スクール」の費用が、本年度決算で初めて多摩・島しょ広域連携活動助成金として計上されている理由は。

決算審査特別委員会での質疑応答の一部をお伝えします。
※発言・内容は要約しています。



A 多摩・島しょ広域連携活動助成金の交付ルールの変更によるもの。平成29年度から連携事業体の幹事市の歳入として処理することになったため。

Q ふるさと納税の羽村市への寄付額は66万4千円。逆に他自治体への寄付額と、市税への影響は。

A 他自治体への寄付額は717万9千円。税控除対象外もあり、市税への影響は、3107万8千円の減少。
Q 市債と基金の割合は。26市中の順位は。

A 市債残高に対しての基金残高の割合は29・6%。26市の平均は39・6%なので平均より低いため割合をあげていきたい。

くらっ

Q 市役所の土日開庁に要する費用はどれほどか。コンビニ収納など納税環境が改善されている。土日のどちらから1日とすべきではないか。

A 光熱水費が約500万円、臨時職員人件費が約100万円。代休代替の職員人件費を含めると人件費は532万円となる。業務改善は、常に検討している。

Q 神明苑という建物はなくなっている。コミュニティバスはむらんのバス停「神明苑」は、名前の変更とともにネーミングライツの活用を。

A 名前の変更は検討中。ネーミングライツについては、停留所全体として進めていく。

Q 市民活動情報紙「ぎずな」の配布費用が昨年度の約4倍になっている理由は。委託先、配布部数、付帯条件は。

A 新聞折込から全戸配布に変更したため。シルバー人材センターに委託し、2万5900部を全戸配布し、広報はむらと同時配布が条件である。

Q 街路照明の電気料は、LED灯に交換したが、前年度より約200万円増えている理由は。

A 燃料費の値上がりによるもの。LED効果は、毎年度200万円である。



Q はむりんを活用したナンバープレートの作成費用はいくらか。

A 1枚383円で作成。
Q 動物公園の改修工事

A 動物公園の入り口はデザインを重視した形にしており、時計を設置する計画はない。
Q 堰下レクリエーション広場の駐車場はどうか。



A 設置に向けて検討中である。

子育て

Q 子育て世代包括支援センター「羽っぴー」が開設された。1回の相談時間はどの程度で、支援プランは状況変化に応じ、適宜見直されていくのか。

A 相談時間は平均20分。多い方で60分。支援プランは状況変化により見直し、切れ目のない支援をつなげている。

Q 乳児家庭全戸訪問は、98・9%の訪問率となっているが、訪問の同意が得られなかった家庭への支援はその後、適切に行われたか。

A 月2回のカンファレンスを行い、その中で他の課題も確認しながら支援につなげるよう図っている。

Q 子育て支援事業に要する経費の委託料37万8千円が28年度と比較して倍になっている。システムの内容と増額の理由は。

A 子ども家庭支援センターで受ける虐待相談に対するシステム。28年度は保守委託料が半年分の支出であったが、29年度は1年間の支出となったため。



▲保健センター内に開設された羽っぴー



▲作成されたピースメッセンジャー報告書

福祉

Q 市の財政を考え、敬老のつどいの演芸は、毎年タレントを呼ぶのではなく、子どもたちの合唱などの年があっても良いのでは。

A 重要な事業だが、開催内容については今後検討する。

平和

Q ピースメッセンジャー事業が充実してきたが、報告書の作成部数と配布先はどこか。

A 400部作成し、羽村・青梅市内の小中学校、広島市の関係先、都内自治体の平和事業担当者等に配布している。

安全・安心



▲羽村駅付近の駐輪場



▲イチョウの根の盛り上がり
が修繕された道路



▲スイミングセンター

Q 自転車利用に関する諸問題を総合的に検討するため、「羽村市自転車利用の総合対策に関する検討委員会」を設置したが、具体的にどのようなことを検討し、方向性はどのようなものか。

A 駐輪場の確保やヘルメットの着用など、自転車利用に関するさまざまな問題点について検討し、33の施策をまとめて報告書を作成した。

Q 街路樹であるイチョウの根によって、歩道が盛り上がり危険であるが、どのように改善したか。

A 危険箇所は順次修繕している。今後、道路の改修にあわせ、改善していく。

Q 小作駅舎の施設が雨漏りしている。随時修理されているが、大規模な修繕が必要ではないか。

Q 街路照明の電気料は、LED灯に交換したが、前年度より約200万円増えている理由は。

A 燃料費の値上がりによるもの。LED効果は、毎年度200万円である。



Q はむりんを活用したナンバープレートの作成費用はいくらか。

A 1枚383円で作成。
Q 動物公園の改修工事

A 動物公園の入り口はデザインを重視した形にしており、時計を設置する計画はない。
Q 堰下レクリエーション広場の駐車場はどうか。



A 設置に向けて検討中である。

消費生活

Q 商店の閉鎖などにより買い物に不自由している消費者がいる。対策は。

A 商工会と連携して行っている「買い物代行サービス」はむらいの市場」の制度をより充実し、利便性の向上を図っていく。